



つながるカレッジねりま みどり分野

ねりまの森維持管理コース 講座だより

第4回「活動の現場運営を学ぼう」 (合同②)

日時：令和5年7月8日(土) 9:30～12:30
会場：区民・産業プラザ(ココネリ3F) 研修室1



今回の講座の流れ

今回の講座は2専攻(樹木管理・草地管理)合同で開催しました。動画でのこれまでの振り返りを通して、団体を運営する上で大切な考え方を学び、各団体から活動紹介を行いました。最後に、それぞれの活動に伴う課題や疑問点について意見交換を行いました。

各プログラムの様子



これまでの講座を動画で振り返りました



4団体から活動の紹介がありました



様々な意見交換を行いました



各団体の森の特徴を活かした活動の記録

団体の運営について

憩いの森の管理活動に関わる3者(団体、練馬区、みどりのまちづくりセンター)の役割や、活動を始めるにあたって必要な準備や、協定・契約、報告、利用できる制度について確認しました。また、活動を続けていくために大切な考え方を学びました。

実習地について知ろう

武蔵大学の学生が、制作した「屋敷林～榎本家のものがたり」を視聴し、屋敷林における日々の生活の様子を知りました。

団体の活動紹介

受講生から、所属する団体について10分程度で発表し、活動状況を共有しました。

相談・交流タイム

団体の課題や工夫等の意見交換を行いました。意見交換を通して地域の方々と連携したイベントや、専門家を招いた野鳥や植物の観察会など、それぞれの森の特徴を活かした活動があることを知りました。また、「西本村憩いの森ファンクラブ」の若いリーダーの活躍と、強い団結力の話も参考になりました。他にも、練馬のみどりを憩いの場にしたい、将来のために恩返しをしたいなど、活動への想いを知りました。

ねりまの森維持管理コースとは？

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

今回のキーワード

森のコンセプト

(みどりのまちづくりセンター)

森のコンセプトを考えるポイントのひとつに「森を知ること」があります。それぞれの森に特徴があり、その土地の歴史や立地などの違いから植生は様々です。どんな樹木や草花があるの？どんな虫や鳥がやってくるの？森の北側と東側で樹木の種類が違う？など、森の情報は盛り沢山です。専門家と一緒に、調査や観察会で森への理解を深めるのも良いですね。森の情報に、みなさんの想いやアイデアをプラスすることで、目指す森の姿が見えてくるのではないのでしょうか。今後やってみたいことなど、未来の森にも思いを馳せてみてください。

森でみつけた！



テントウムシ

森でナナホシテントウやナミテントウを見かけることがあります。かれらは肉食で、アブラムシなどを食べます(日本では約180種のテントウムシが確認されており、草食のテントウムシもいます)。そのため、ナナホシテントウやナミテントウは、アブラムシが多く発生する植物の近くに集まります。ただし夏の暑い時期には、ススキの根本などに潜り込んで過ごします。

憩いの森の管理団体の中には、草地の管理を行っているところもあります。草刈りのタイミングや刈る高さ、刈る植物や残す植物などを工夫することで、草地に生息する生き物の種類が変わってきます。工夫次第では、生き物をたくさん呼び込むこともできるのです。